

P2・3	企画展 湖都大津のこもんじょ学
P4	ミニ企画展 桜さくサクラ展
P5	収蔵品紹介
P6	学芸員のノートから

# 大津歴博 だより

## 第63回企画展

# 湖都大津のこもんじょ学

平成26年3月1日(土)～4月13日(日)



足利義詮



徳川家康



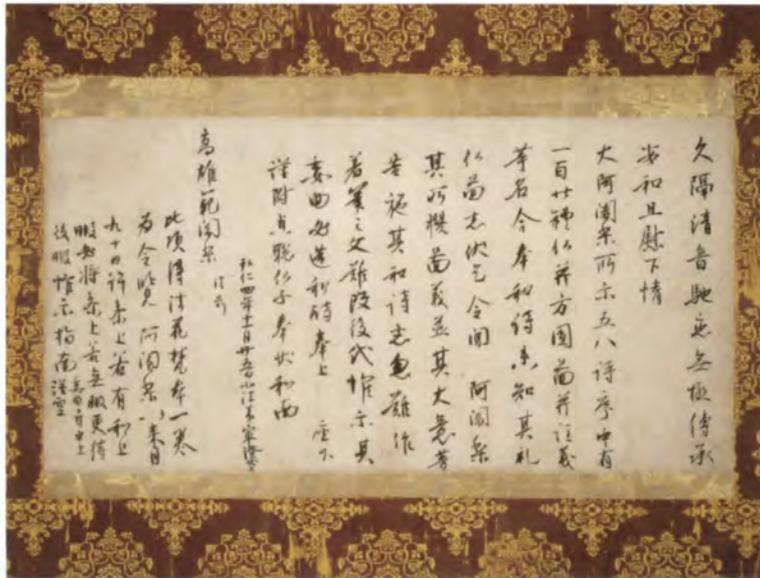
六角定頼



豪潮



織田信長



国宝 伝教大師(最澄)尺牘(平安時代・奈良国立博物館蔵)



太政官印



伊達政宗



後北条氏虎印



飯尾貞広



羽柴(豊臣)秀吉



足利尊氏



源義経

企画展

# 湖都大津のこもんじょ学

平成26年3月1日(土)~4月13日(日)

## この春、大津市歴史博物館に、大津の歴史を読み解くための 国宝7点、重要文化財36点を含む古文書が大集合！

古文書(こもんじょ)は、大きな意味では、「古くなった文書」のことを指します。そこに書かれているのは、過去の事件や出来事だけではありません。各時代の社会の様子や人々の暮らしも、そこから読み解くことができるのです。ところが、実際に書かれてある文字は、グネグネしていて、内容も断片的で難解です。読めない、わからない、難しいだらけの古文書たち。展覧会でも地味な存在で、スルーされてしまいがちな古文書たち。

でもでも、よく考えてみてください。みなさんが小学校や中学校、高等学校で学んできた日本の歴史の多くは、こうした古文書や歴史資料に基づいて明らかにされてきたものばかり。しかも、雄大な山々と琵琶湖に抱かれた湖都大津は、東海道を通じて京都と結ばれ、しばしば歴史上の舞台となり、それらに関わる古文書がたくさん伝わっています。特に、延暦寺や園城寺、西教寺、石山寺などの諸寺院、坂本・堅田・瀬田・大津百町など大津市内の各地域に伝わる古文書は、大津の歴史を明らかにするための重要な資料であると同時に、後世に引き継いでゆくべき文化財といえるでしょう。

地味だからこそ、味わい深い。一度、古文書ファンになると、二度と抜け出せない?! 今回の展覧会では、そうした大津の歴史を明らかにする魅力ある古文書たちを一堂に展示し、大津の歴史を古文書から感じていただきます。また、文字や内容だけでなく、様々な角度から古文書を紹介し、見方や鑑賞ポイントもお伝えします。初めて古文書を観るという方も安心してください。歴史上著名な人物も、古文書の上で大集合します。最澄や円珍といった大津の仏教文化を語る上で欠かせない高僧たち、源義経や足利歴代将軍、織田信長や明智光秀、豊臣秀吉や徳川家康など戦乱で活躍した武士たち、ずっと後の明治時代では大津事件の津田三蔵など。彼らが大津に残した足跡を、古文書の文字や形、印章から感じ取ってください。

この春は、大津市歴史博物館で「こもんじょ」を!ぜひお見逃しなく!

### ◆インフォメーション◆

主催/大津市・大津市教育委員会・大津市歴史博物館・京都新聞

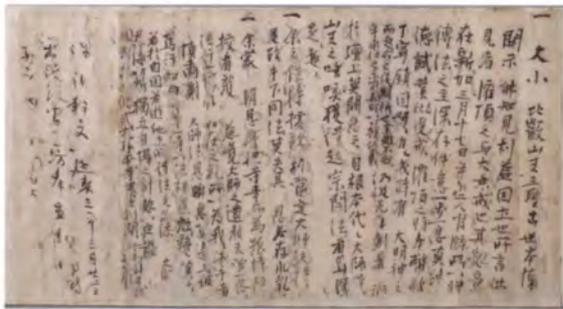
後援/NHK大津放送局・BBCびわ湖放送・エフエム滋賀

観覧料/一般:800円(640円) 高大生:400円(320円) 小中学生:無料

※( )内は、前売り、15名様以上の団体割引、または大津市在住の65歳以上の方、大津市在住の障害者の方の割引料金。

※前売り券は、大津市観光案内所(JR大津駅・石山駅・堅田駅前)、大津市民会館、ローソンチケット(Lコード59203)をはじめ、京阪津地区の主なプレイガイドで2月14日から3月23日まで発売。

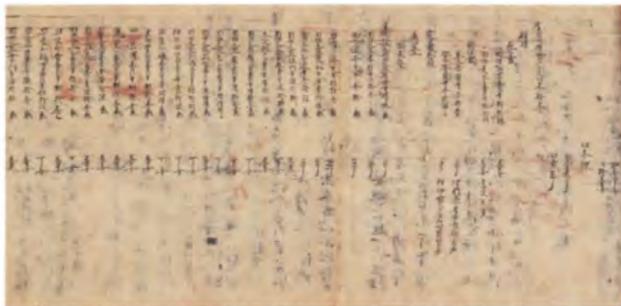
休館日/月曜日



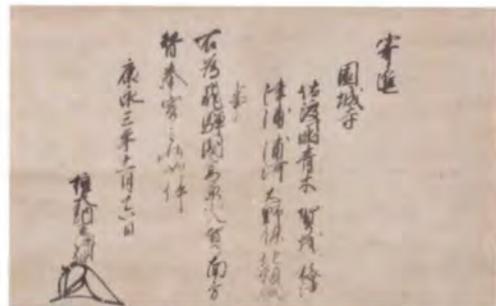
円珍が門弟に伝えたかったことは？  
国宝 智証大師関係文書典籍のうち制誡文 平安時代 園城寺蔵



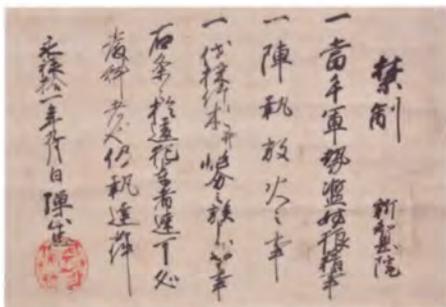
刻まれた文字に古代寺院の記憶が！！  
器書土器「錦寺」9世紀末  
南志賀出土・大津市教育委員会蔵



古代の戸籍！28人中女性が18人？家族構成のカラクリ。  
国宝 周防国玖珂郡玖珂郷延喜八年戸籍残巻 平安時代 石山寺蔵



大きなサインは將軍の証。  
足利尊氏寄進状 南北朝時代 園城寺蔵



天下統一の志。「天下布武」の朱印がここに！  
織田信長朱印状 戦国時代 新知恩院蔵



御奉行様、事件です。傷だらけの男が…。  
新林地内遺体検見一札（膳所藩への報告書）  
幕末期（19世紀） 南大萱資料室蔵



大津は米の集積地！お米の組合の記録簿  
大津御用米会所要用帳 江戸時代 館蔵



箱に入れて風呂敷に包んで大事に保管。  
市指定文化財 今堅田船大工仲間文書  
安土桃山時代 今堅田船大工仲間蔵

# 桜さくサクラ展

3月18日(火)~4月20日(日)

西国三十三所第14番札所の園城寺（三井寺）は、江戸時代より桜の名所として著名であり、三井寺を描いた絵画作品の多くは、満開の桜が咲き誇る境内を描いたものとなっています。とりわけ、近江八景のひとつ三井晩鐘においては、本来は、日本三名鐘のうち音色第一とされる三井寺の梵鐘が、入相の時（日没）を告げて遠方から響く、閑寂な情景なのですが、満開の桜で爛漫とした明るい情景を描いた三井晩鐘として描く近江八景が多いのは、桜の名所としての知名度が、名鐘を上回っていたからに他なりません。

ちなみに、近隣の長等公園も、戦前から桜の名所として賑わいをみせており、やはり、近代の日本画に、その情景が描かれています。

本展では、桜の名所として三井寺を描いた江戸時代から近代までの日本絵画や工芸品を中心に、大津・近江ゆかりの画人による桜を描いた作品もあわせて展示いたします。



吉田元陳 近江八景画卷のうち三井晩鐘 個人蔵



柴田晩葉 三井寺の桜  
足立郁子氏蔵



織田瑟々 八重便殿櫻図 個人蔵



歌川広重 近江八景【魚栄板】 三井晩鐘  
大津市歴史博物館蔵

## 琵琶湖を代表する観光船「玻璃丸(はり丸)」

玻璃丸模型 昭和20年代制作 琵琶湖汽船株式会社蔵

歴史博物館のエントランスロビーには、全長3メートルを超える大きな船の模型が展示されています。戦後の琵琶湖を代表する観光船「玻璃丸(はり丸)」の縮尺20分の1模型です。作られた経緯は不明ですが、内部まで精巧に作られていることから、建造にあわせて、記念もしくは宣伝用に制作されたものだと考えられます。実はこの玻璃丸は、博物館では隠れた人気を誇る展示資料です。

まずは、簡単に玻璃丸の歴史について紐解いてみましょう。この船は、昭和26年3月に進水した、琵琶湖の大型観光船です。玻璃とは水晶やガラスの異称で、ガラス窓を多用した船型から名付けられたといえます。琵琶湖の観光船事業は、すでに戦前から「みどり丸」や「京阪丸」などの大型観光船が就航して、多くの観光客を楽しませていました。玻璃丸は戦後の琵琶湖観光復興の起爆剤として計画され、約1億円に及ぶ建造費と開発宣伝費を投資した、琵琶湖汽船と京阪グループの一大事業でした。その目論見は功を奏し、初年度から数多くの乗船客が訪れ、子ども向けの絵本にも紹介されるほどの注目を浴びました。

玻璃丸は、戦前からの定番コースだった、島めぐり航路に就航していました。これは朝、大津港を出発し、竹生島などの島々を1日かかりで周遊するコースです。また、夏には夕暮れ時に大津港を出発する納涼船「たそがれ・ショーボート」に就航、年間を通して多くの観光客を集めました。昭和57年8月31日の島めぐり航路を最後に現役引退し、同年4月から就航した外輪船ミシガンへと主役の座を譲りました。

このように、玻璃丸は地元の方だけでなく、京阪神の人々にとっても必ず乗船経験のある、思い出深い観光船だといえます。そのせいでしょうか。博物館に来られた方々は、模型を見つけると立ち止まられ、時には、模型の前で乗船時の思い出を語り合う姿を見かけます。また、子どもたちも、精巧に作られた内部を覗き込み、トイレやお風呂を発見して喜びます。なにより嬉しいのは、「昔、乗ったことがあるよ」などと、実物を見たことのない子どもたちに、家族の間で当時の琵琶湖観光の様子を語り合っていただけのことです。

玻璃丸の模型は、企画展開催時に、ロビーの目立たない場所に移動させることもありますが、基本的にはいつでもロビーに停泊？していますので、是非一度じっくりとご覧ください。



(本館学芸員 木津勝)

## 地域の歴史は街歩きから見えてくる

資料調査の一環として、ここしばらく堅田や坂本、旧大津町、膳所の街なかを歩いている。そのとき、江戸時代の絵図、明治時代の大日本帝国陸地測量部作成地図、昭和30年代の都市計画図や住宅地図などは必需品だ。大津市内の各地域は昭和40年代から逐次町名変更が実施されているため、昔の地図に記された町名は探しづらい。その他、地元で呼ばれている通りや辻子(ずし)の名前も調査対象となる。街を歩くときはできるだけ細かく隅々まで観察することが大事だ。ちょっとでも気になるものは記録する。そして必ず地域の古老にお聞きする。

下に掲載した写真①は、膳所の城下町調査で見かけたもの。駐車場の中に石の列が顔をのぞかせている。向かって左手のアスファルトは右側より少し下がっている。江戸時代の絵図と合わせると、どうも外堀のあたり。そこで地元の人にインタビュー。やはり堀跡で、左手の凹みは埋め立てのために地盤が弱いことで出来たものだという。写真②は坂本で見つけた通行禁止の看板。なんと「歴史の小径 蓮華園」と書いてある。坂本には、この他、伊勢園、倉園など「園」の字が付く場所が五つあるという。また地元では「レンゲソノ」ではなく「レンゲソウ」と発音されている。そうなれば他の地名も確認したくなりお聞きすると、横小路はヨコウチ、郡園はコウシロー。そんな些細なことの聞取りが地域の歴史を紐解く鍵になったりするのだ。また街なかで見つけた道標も、昔からそこにあったかは確認すべきだろう。写真③は坂本市民センターの前に立っている道標だが、刻まれた文字を見ると方向は合っている。しかしお聞きしてみると、昔は道の向かい側あたりに立っていたとのこと。地域の歴史の調査は油断大敵だ。

(本館館長 樋爪 修)



左から写真① 丸の内町3の石列、② 坂本六丁目の1と27の間の通り、③ 坂本六丁目1の北国海道ほかの道標

## ご利用案内



### 交通機関

- ・京阪電鉄石山坂本線別所駅 徒歩5分
- ・JR 大津駅 徒歩 15分
- ・JR 大津駅、バス10分 別所下車

■駐車場 約70台(無料)

### 平成26年4月1日以降の常設展示観覧料(1人1回につき)

区分	個人	団体(他2名以上)
一般	270円	210円
高校生・大学生	200円	160円
小学生・中学生	130円	100円

- ◆大津市内在住の65歳以上の方、市内在住の障害者の方は無料。
- ◆ミニ企画展は、常設展観覧料でご覧いただけます。
- ◆企画展の観覧料については、その都度定めます。

### 開館時間

午前9時～午後5時(展示室への入場は午後4時30分まで)

### 休館日

月曜日(祝日・振替休日の場合は開館し、翌日が休館)  
 祝日の翌日(土・日曜日の場合は開館)  
 年末年始(12月27日～1月5日)  
 その他、業務の都合により休館する場合があります。

### 歴博カードのご案内

当館主催の展覧会を自由に観覧いただける定期観覧券です。また、当館発行の出版物や催し物の割引、様々な情報のご案内など、多くの特典を設けております。(1年間有効)

料金	一般	高大学	小中学
	2,000円	1,500円	1,000円

★詳しくは博物館までお問い合わせ下さい。



## 大津市歴史博物館

〒520-0037 滋賀県大津市御陵町2番2号  
 TEL 077-521-2100 FAX 077-521-2666  
<http://www.rekihaku.otsu.shiga.jp/>

大津歴博だより No.93 平成26年2月10日